

「常識」を越えて

升岡 瑚子

「暑い。」

これは誰しもがここ数年の夏によく思うことではないか。今、地球で温暖化の影響により異常気象が発生している。だから今、地球を飛び出して月や火星の研究が進み、違う星への移住計画が話題になっていく。そこで私は考えた。月や火星、あるいは地球よりも

と人間が住むのに適した星があるのではないか。私は人間が新しく住むことができる惑星を新たに発見する計画を立てたいと思う。どのような惑星が生物が生きるのに適しているのか。まずは陸がなければいけない。惑星は、主に固体の大地でできている。地球型惑星ではないといけない。そして、水があることも重要である。液体の水ではなくても水蒸気だったり、火星のように氷があつたり、水に変化できるものが大事である。ここまでに

は火星なども当てはまっています。しかし、適温であることも大切だと思ふ。火星の平均気温はマイナス六十三度ほどと言われている。この気温であれば快適に過ごすことはとても難しいと思ふ。また、地球の隣には金星があるがそれは暑すぎる。ここから私は、太陽系の惑星には地球の他に人間が住むのにとっても適している惑星はないと思つた。

太陽系外惑星にも水が見つかつていたり、ハビタブルゾーンにあるとわかっていたりする

惑星がある。しかし、また発見されていない星もたくさんあると思ふ。だから私は、新たな惑星をたくさん発見して、その惑星に水や大気があるか、適した気温であるかなどを調査したい。そして最終的には人間が住むための条件を全て満たした「第二の地球」を発見したい。そこには新たな生物などがいるかもしれない。「第二の地球」を見つけていることは必ず何かの役に立つと思ふ。

私は地球よりも素晴らしい星がきっとたくさん

さんあると思う。夜、空で光っている星の中に、もしかしたら地球の水よりもっとすごい成分の液体があるかもしれない。例えば一口飲むだけで一週間分のエネルギーが得られる。水^レのようなものが発見できるかもしれない。私が生きている地球は宇宙からみたら本当に小さな小さな星の一つにすぎなくて、私が考えている常識^レなんて取るに足らないものだ。私は地球に留まることなく、広い世界を見たい。いっつか、誰も知らない、みんなが過ごしやすい惑星を見つけたいと強く思っている。